

# 2019年度 センター試験 英語 リスニング (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 約 30 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：25 問
難易度の変化 (対昨年)	○ 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量 (対昨年)	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

### 総評

大問数、解答数、問題の分量に変化はなかった。第 1 問の計算問題は昨年度がやや複雑な計算が求められたのに対し、今年度は比較的取り組みやすいものであった。また、第 2 問の応答の選択肢が昨年度と比べると易くなったので、解答を選びやすくなった。後半の第 3 問、第 4 問も同様に解答の選択肢に共通部分があり、相違点を絞りやすかったため、聞くポイントが明確であった。したがって、全体的な難易度は昨年度に比べて「やや易化」したと言える。出題分野、出題形式には変化はなかった。

2016 年度の出題形式の変更以降、センター試験のリスニングは 3 人の会話文が出題されるなど、簡単なものではなくなった。日ごろから聞き取り練習、音読を繰り返して対策をしておく必要がある。特に音読はネイティブスピーカーの発音を手本にして何度も繰り返してほしい。

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	短い対話を聞き、答えとなるイラストや数値を選ぶ問題	12 点	昨年度と比べると問 2 と問 5 の計算問題が比較的簡単な計算で解くことができた。また問 6 のグラフを選ぶ問題は、昨年度は解答根拠がわかりやすいため平易であったが、今年度は複数の情報を処理しなければならないため、やや難しかったかもしれない。
第 2 問	短い対話を聞き、続く応答を選ぶ問題	14 点	昨年度と同様、対話の状況を十分に理解することが要求された。今年度はあらかじめ応答の選択肢に目を通しておけば、場面、状況をとらえやすかった。
第 3 問 A	少し長めの対話を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	どの問題も設問と選択肢を確認できていれば、答えを出すことは難しくないだろう。全体として昨年並みの難易度と言える。
第 3 問 B	対話を聞き、視覚情報を使って、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	昨年度あった地図がなくなり、4 つの展示案内に関する問題であった。一昨年度まで出題されていた形式に近いものであった。あらかじめビジュアルの情報をどれだけ把握できるかがポイントである。
第 4 問 A	長めのモノローグを聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	設問と選択肢の読み込みができていれば、解答に苦勞しないだろう。聞き取るべき英文も標準的なものであり、選択肢は昨年度よりも相違点が明確なため、どこに注意して聞けばよいかわかりやすかった。
第 4 問 B	3 人の長めの会話を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	第 4 問 A と同様に選択肢に共通部分があつて、相違点に注目して聞けば、昨年度と比べると答えが導きやすかった。また昨年度までであった意見の違いなどを聞く設問はなかったため、少し易化したと思われる。